

平成19年成人を祝う会を 自分たちで

熊野町では成人式の式典を、新成人自らが作り上げています。今回も10人の実行委員が集まり、準備を進めています。これまでに式典の内容や役割、アトラクション等を検討してきました。

思い出の一日となる日です。期待が膨らみますね。



▲思い出の一日づくりに、実行委員会は活動中！

と き 平成19年1月7日(日)
13:00 受付開始
13:30 記念撮影、式典・懇親会等
16:00 終了

ところ 町民会館
対象者 昭和61(1986)年4月2日～
昭和62(1987)年4月1日生まれの人
熊野町出身で、現在は町外に住居登録されている方の式への参加は、現住所・氏名・連絡先などを12月12日(火)までにお知らせください。案内を送ります。
(熊野町ホームページ「教育・文化・スポーツ」→「その他」→「成人式」→「成人を祝う会」の中にあるFAQ集を参考にしてください。)

平成19年成人を祝う会のボランティア募集

成人式で、成人者の受付や舞台転換等をして頂ける運営ボランティアを募集しています。成人者の保護者や地域で活躍されておられる方、先輩・後輩など多くの方にご参加を頂き、共に新成人を祝福しましょう。

申込み・お問合せ先
生涯学習課 TEL820-5621
e-mail: shogai@town.kumano.hiroshima.jp



問合せ先 熊野町PTA連絡協議会事務局(第四小内)
TEL 854-5145
(学校教育課)

リンパ腫による闘病生活から、また息子のイジメ、不登校体験から生まれた歌で、多くの人を勇気づけるため、学校・病院などで多数コンサートを開催している。

あとRun太
トーク&コンサート

とき 12月15日(金)
開場 午後6時
開演 午後6時半

ところ 町民会館ホール

入場料 無料

広島市在住のシンガーソングライター。自身の体験である悪性

創立30周年 新たな出発 ／中国高校生16人 来校

熊野高等学校

この地に(129)

■11月11日(土)、創立30周年記念式典を行いました。地元選出の県議会議員や熊野町長等の来賓の御臨席を賜るなか、卒業生や在校生、保護者ら約800人が出席し、熊野高校30年の歴史を振り返り、良き校風を今後継承していくことを確かめました。

■11月16日(木)・17日(金)の2日間、中国の河南省や重慶市の高校生16名が来校しました。これは、外務省が主催する「日中21世紀交流事業-中国高校生招聘事業」の一環として、本校が受けたものです。16名の中国高校生は、本校の生徒の家庭で1泊のホームステイを経験しました。受け入れていただいた御家庭も初めは少しの戸惑いもありましたが、次第に打ち解けあい、短い時間ではありましたが、とても楽しい時を過ごしました。

翌朝のお別れ会では双方の高校生が感想を述べ合い、「サイ ジェイン (再会)」を連発、別れを惜しまました。



▲河南省や重慶市の高校生16名が来校しました

問合せ先 熊野高等学校 TEL854-4155

歯科保健優良校表彰を受賞

熊野第四小学校

10月26日(木)、安芸地区学校保健大会で安芸地区歯科保健優良校15年の表彰を受けました。

これは15年間、子ども達が歯と口の健康に関心を持ち、虫歯の治療に励んだりした、良い歯づくりの実践に対していただいたものです。

本校の児童保健委員会は、歯の衛生週間中の「歯磨き調べ」や、給食後の「歯磨き放送」の取り組みをしています。全児童が「ピカピカ歯磨き」の曲に合わせて、楽しく磨いています。

歯磨きの励行等を通して、歯と口の健康、そして、心と体の健康へとつながる歯科保健活動を今後も推進していきます。



←第四小学校の児童保健委員会の皆さん

(学校教育課)

熊野吹奏楽団
第9回定期演奏会

とき 12月17日(日)
開場 午後1時10分
開演 午後1時半

ところ 町民会館ホール

入場料 無料

指揮 長野広幸(常任指揮者)

曲目 イギリス民謡組曲・ハウルの動く城ほか

問合せ先 奥田 TEL 854-8888
(生涯学習課)

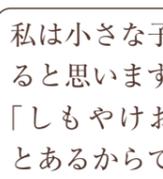
ことばの広場 熊野第一小学校

みんなでチャレンジ!! 「テキストの分析」
皆さんご存知の「たき火」の歌詞を次のような指標で分析してみましょう。
※テキストの分析とは、根拠に基づいて文章を読解していくことです。

- [分析するための指標]**
- ①場所②季節③時間④天気⑤誰がいますか
 - ⑥これから登場人物はどんなことをしますか
 - ⑦登場人物はどんな気持ちですか



僕は季節は冬だと思います。わけは「たき火にあたろう」と言っているからです。



私は小さな子が出てくると思います。わけは、「しもやけおててが」とあるからです。

(学校教育課)

くまの歌壇

熊野短歌同好会

どんぐりを拾う親子を見つづき行きはるかな時を遡りおり
原 森 喜久枝

家族らと夫の還暦を祝う膳囲みて時間は穏しく流れる
高 松 勝 子

この先はつるべ落しの身なれども人生の春はこれからと言う
小 川 豊 子

文月を自在に生きむゆらゆらと風とあそべる凌霄花
中 井 千代子

会う度に「少年」のまなきしいよ増せど幼はわが胸に飛びこみくれぬ
田 中 洋 子

裏庭にただ一本の曼珠沙華真紅に咲きて何を語れる
中 井 桂 子

散歩道秋風に乗る病葉の落ち来る先の桜もみじ葉
北 木 邦 子

窓の下ノサギの花の続く道このバスの先は古里かと思ふ
大 杉 徳 子